

授業改善書

科目名	社会学Ⅱ
担当者	中村 牧子

授業の概要

社会学Ⅰに続く応用編であり、現代日本社会における様々な社会関係の特徴とその相互関係、問題点等について多角的に学ぶ授業である。毎回、2つの領域を選んで論じているが、今期は、「労働」領域については男性の働き過ぎ、女性の雇用労働と家事労働の両立困難、若者の非正規化などの現状や対策について、データや新聞記事等を見ながら理解を深めた。「自己」領域については、現代社会において自分らしく生きるとは？という問いのもとに、LGBTを含むジェンダーや障害者などの事例を紹介し、それを通じて自身や色々な他者の立場から現代社会を考えるやり方を学んだ。

授業の問題点

授業への学習態度については、ノート取りや出席はできているが、授業外学習や質問・発言のスコアはやや低い。
授業内容については、授業テーマの明確さや、興味・関心を持って聞けたこと、90分の有効活用等についてはスコアが高いが、学生からの質問への対応という項目のスコアは最も低く、学生の能動的学習の面にはまだ問題があることがわかる。

学生の授業満足度

授業内容から得られたもの、満足度については、ほぼ評価されているようである。また、今回は授業を円滑に進める配慮についてのスコアが、例年よりは高い。これは、今期の受講者があまり私語などをせず、最初のほうで喋っていても一度言えば改めるという姿勢が見られたことのおかげかと思われる。

授業改善の課題と方策

授業外学習については、折々の社会観察課題に加えて、自分で調べてまとめるレポートを課すことで、自主的な学習を促している。これによって、以前よりは勉強するようになっていっていると思われる。加えて今期は、レポートの成果を試験問題にも反映させるべく、返却して振り返る機会も設けるなどの工夫をした。今後も可能な限り、この方向で進めたい。

授業への能動的参加を促すため、ほぼ毎回小レポートを課して、授業内容に関連する意見や自分の経験などを書いてもらい、それを次回授業で紹介することで受講者の関心を高めている。これを通じた各人の文章力の上達も見られるので、これは今後も続けていく予定である。

学生からの質問はもともと少なく、授業内容について質問する学生は限られているため、今後、質問するきっかけ作りなども考慮していきたい。

なお、今回は自由記述が少なかったため、この点については特にコメントはない。

その他

--